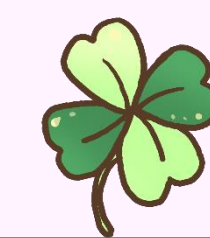
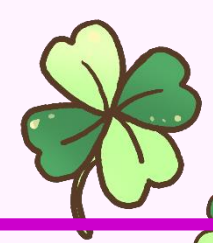


特別な支援を必要とする子どもの保育現状と保育士の認識②

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻
石野晶子



本研究は、以下の研究背景・目的および研究方法にて
2調査を実施予定だった。
しかし、コロナ感染症の影響で調査が実施不可能だった。
そのため、予定していた調査の概況のみ報告する。



背景

新生児医療の進歩はより多くの重症新生児の救命を可能にした。一方、医療的ケアが必要な児、発育・発達上で育ちづらさや育てづらさがある児、慢性疾患がある児等、日常的に特別支援を必要とする児の在宅で生活するようになった。特別支援の有無に関わらず乳幼児期の発達支援は重要であり、医療的及び多様なニーズが高い親子に対する地域での発達支援及び子育て支援が求められている。

目的

研究目的は、特別な支援が必要な乳幼児に対する保育体制、保育の実践における課題を提示し、特別な支援が必要な乳幼児の保育を実践する保育士のニーズを明確にすることである。また、保育により支援が必要な児と家族及び同一集団児の変化を検討することにより、特別な支援が必要な子に対する発達支援及び家族支援の在り方を提言することである。

方法

本年度は、自治体による特別な支援が必要な乳幼児の保育体制の相違を把握するため、昨年度に引き続き同様の質問紙を使用し、昨年度とは異なる自治体A市での研究を予定していた。

そのため、本研究では以下の2調査を予定していた。調査①②ともに、対象には無記名自記式質問紙調査にて実施を予定していた。得られた回答はデータ化し、統計解析ソフトSPSSで分析予定だった。

しかし、コロナ感染症の流行による緊急事態宣言発出による社会生活様式の変化等により、調査実施予定だった社会福祉施設（保育園）での対応が困難となり、本年度は調査実施を見送らざるを得ない状況が生じた。

調査①

趣旨：保育所における障害児保育体制、特別な支援が必要な児の保育実践の有無と内容把握、諸機関との縁系体制に関する実態調査。

対象：A市公立保育施設の園長13人。

内容：・特別な支援が必要児の受け入れ体制
・子どもの実態
・保育上の配慮内容
・他機関との連携 を主に21項目。

調査②

趣旨：保育所勤務の保育士の特別な支援が必要な児の保育に対する認識、困難さ、保育士が必要とする支援等の認識調査。

対象：調査①を実施した園に勤務する保育士。

内容：・保育経験の有無
・保育について感じていること
・課題
・必要としている支援 を主に13項目。

今後に向けて・・・

社会状況が落ち着き、保育現場での調査実施の許可が得られた後、準備している調査研究の再開を予定している。

再開ののち、再度、研究対象等への調査依頼・概要説明及び同意を得ることを行っていく。現在は、質問項目の精査および昨年度実施した調査結果から得られた知見からの考察等を行い、調査再開に向けて準備を進めている。